

レストハウス改修による大学の地域貢献

University's Regional Contribution to Renovation of The Resting Area

弓 立 順 子

Junko YUDATE

要旨

本作品は、名古屋市の「果樹」をテーマにした農業公園「名古屋市東谷山フルーツパーク」にあるレストハウスの改修プロジェクトである。老朽化が進むレストハウスは集客向上の整備が急務であった。地域の人たちと共に長期的な視点で取り組みたいという事業者の熱意により、大学との産学連携としてプロジェクトが始まった。実務経験のある教員の指導のもとで学生主体のデザイン計画が行われ、本プロジェクトは大学の地域貢献として成果をあげた。

Summary

This work is a renovation project of the resting area at "Togokusan Fruits Park by City of Nagoya", a fruit trees-themed agricultural park. It was an urgent task to improve an old resting area in order to increase number of visitors. As an organizer was ambitious to collaborate with local communities with long-term vision, this project was started as one of industry-university collaboration program with our university. Students themselves did design planning under instructions of an experienced professor with expertise. This project made a fruitful result as one of university's contribution to the region.



図1 改修後のレストハウス リンゴ箱の飾り棚・キッズスペース・壁面マップ

¹ 金城学院大学生活環境学部環境デザイン学科
Department of Environmental Design, College of Human Life and Environment, Kinjo Gakuin University

1. はじめに

本作品は産学連携によって提案された名古屋市の「果樹」をテーマにした農業公園にあるレストハウスの改修プロジェクトである。

名古屋市東谷山フルーツパークは1980年に開園した施設で、敷地内には現在16種の果樹園と熱帯・亜熱帯地域で見られる約100種類の珍しい果樹を観察できる果樹温室、果物に関する知識を紹介する施設、売店、レストハウス、無料休憩所、本館施設などが整備されている。現在は名古屋市緑政土木局指定管理者選定^[注1]を経て、公益財団法人名古屋市みどりの協会（以下、事業者）が施設の管理運営業務を行っている。

指定管理契約は10年毎に更新されており、2018年度に事業者が名古屋市の指定管理者選考（2018年度から10年間）に応募する際、実施業務の計画〈市民・地域・企業等との協働〉の中に大学との協働による施設の活性化を挙げ、自主事業の計画としてレストハウスのリニューアルを提案した^[注2]。築35年が経過し老朽化が進む施設の各所の中でも、レストハウスは昼時を過ぎると客もまばらで、施設の充実と魅力向上が急務であった。事業者はこれまでも同区内の大学の食環境栄養学科の学生によるメニュー開発や薬学部と果物を利用したリップクリーム・ハンドクリーム作りなどの企画や環境デザイン学科の学生による施設の活性化の企画で産学連携^[注3]を行ってきた。事業者は地域に愛される施設として一時的な改修ではなく、地域の人たちと共に長期的な視点で取り組みたいという希望があり、同大学との産学連携としてレストハウスの改修計画がスタートした。しかしながら産学連携での成果（アウトカム）が、事業者の要望に十分なものとなるのかは当初は想定できず不安要素は否めなかったが、地域との連携の重要性を重んじる事業者の熱意により同区

内の大学との産学連携が成立した。本プロジェクトでは20代学生のアイデアや利用者目線による改修によって同世代へのPRと将来的な利用者層としての期待を含むものでもあった。

本プロジェクトはインテリア設計の実務経験のある指導教員のもとで、空間デザインを学ぶ3年生の有志学生6名がデザイン提案を行い、施工は株式会社スペース（以下、施工者）を含めた3者での産学連携で行われた。学生は計画案を作成するだけでなく実際の施工へと移るプロセスを実践で学ぶことができた。

2. 全体の流れ（プロジェクトフロー）

学生のプロジェクト活動を時間軸で整理し表1に示す。

2017年10月に事業者からレストハウス改修提案について指導教員が相談を受けるところから始まった。事業者が2018年度から10年間の名古屋市委託指定管理者に決定したことを受け、2018年1月から空間デザインを学ぶ学生の目線での現地調査から開始した。既に事業者が抱えている問題や要望もあったが、与えられた問題点を解決するだけでなく、未知の問題に対して探求する主体的な過程は、学生自身の目標や責任感を意識させる効果が得られると期待したからである。

表1 プロジェクトフロー

- 2017年 10月 名古屋市みどりの協会から相談を受ける
- 2018年 1月 現地調査
改修案作成期間
- 2018年 6月 第1回 パースを含めた2案の提案
- 2018年 7月 キッズスペース、入口周りの提案
- 2018年 8月 施工者との打合せ
- 2018年 9月 第2回 パースを含めた最終提案
- 2018年 10月 りんごの木箱のメニュー表提案
- 2018年 11月 園内マップ、カウンター上部メニュー制作
作業期間
- 2018年 12月 アート作品制作
- 2019年 1月 りんごの木箱 制作過程工場視察
- 2019年 2月 アート作品現場取付 竣工

改修提案に対する疑問点については事業担当者と打合せ、6月にパース2案を含めた提案書を作成した。その後、事業者からの要望を加えて修正、9月に最終案としてまとめた。施工は準備期間を含め約6ヶ月、工事期間(1週間)を経て2018年2月に完成した。

3. デザインプロセス

改修計画にかかる前にまず現地調査を行い、現状の問題点を把握した上でデザイン案を作成した。2018年1月に学生が行った現地調査での問題点を以下に示す。

現状の問題点と設計の課題(図2~4参照)

- 1) 入口付近に使用されていない陳列棚のコーナーがある。(図2)
- 2) 客席奥にパーティションで囲われた従業員スペースがある。(図4)
- 3) メニューパネルが入口付近を狭くしている。
- 4) 暗い青い色と柱の色の壁面がイメージを暗くしている。(図3)
- 5) 全体的に若い人たちには魅力のないインテリア空間。
- 6) カウンターやサービステーブル、ゴミ箱が汚い。
- 7) お茶コーナーの棚が大きすぎる。(図2)
- 8) 照明器具や家具が古臭い、汚れている。
- 9) 子供が楽しめる場所がない。
- 10) エントランスのファサードを含め魅力がない。
- 11) パイナップルのマークがあるが、展開されていない。

事業者から経年による照明器具や什器の劣化に伴う取替え要望があること、また予算は決定していたため予算内に収まることを前提に計画することを学生に伝えた上で、自由なアイデアを求めた。公園の近隣は住宅開発が進み若いファミリーが増加していることもあ



図2 改修前のレストハウス内部a



図3 改修前のレストハウス内部b



図4 改修前のレストハウス内部c

り、子供連れの若い年代をターゲットに地域に愛されるインテリア計画を進めた。

チームメンバーに共通するイメージを抽出するため、各メンバーが参考写真を出し分類した。最初は「ポップ」「ナチュラル」「アーバン」の3つに分類されたが、「アーバン」のイメージは本計画にはそぐわないと判断し外した。ワインの箱を再利用した壁面装飾の事例、黒板アートをつかったカフェのイメージ、小枝を使用したアートなどが提案された。

改修前の客用スペースの一部にはパーティ

ションで区切られた従業員スペースがあり決定的にイメージを低下させていたことと、エントランス部分に使われていない陳列棚のコーナーがあった。そこで従業員スペースをエントランス部分に移動するレイアウト計画の見直しを行った。従業員スペースは木箱を利用したパーティションで区切り、表側は黑板アートを利用したメニューなど若い人たちが魅力に感じるカフェのイメージとした。学生から出されたアイデアは指導教員からのアドバイスでレイアウトに落としこみ、家具選定やカラースキムの指導を受けた。

提案内容は、コンセプトイメージ、平面計画、家具・照明計画、パースで構成された提案書として作成した。最初から一つのイメージに決め込まず、木の温かさと黒色で引き締めたデザインでまとめた Warmth×Calm 案（図5）と、楽しく散らばる緑と色彩でまとめた green×fruits 案（図6）を2018年6月に2案の提案を行った。

2つの提案は事業者内で協議され、街中にあるカフェのイメージの Warmth×Calm 案ではなく、フルーツを感じる green×fruits 案の方向性が好まれた。従業員スペースの移動については了承されたが、施設をよく利用されるお年寄りにも好まれる色彩計画の要望と、提案書に含まれていなかった子供のためのスペースの設置、外部ファサードのイメージ提案を求められ7月に追加提案を行った。最終的なコンセプトは果樹をイメージしフルーツの色をちりばめたフルーツパークのカフェとして greens fruits（図7）とした。インテリアイメージの大きな部分を占めるパーティションは木箱を利用し、園内の剪定枝などを利用した壁面や棚を飾るアート作品とすることで、フルーツパークでしか得られないインテリア計画とし、2018年9月に最終案（図8）としてまとめ事業者の了承を得た。



図5 Warmth×Calm案 イメージパース



図6 green×fruits案 イメージパース

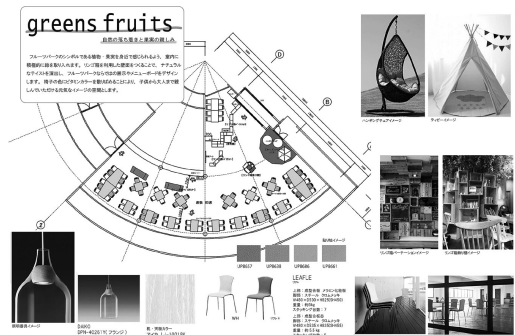


図7 提案書 greens fruits の一部



図8 greens fruits案 イメージパース

4. 施工

学生では施工できないため、学生提案を尊重し完成にいたるまでのプロセスを学生と共有することが可能な施工協力者の協力を得ることとした。施工者を含めた3社での産学連携となり、工程管理や施工精度面について事業者が持つプロジェクトへの不安は払拭され、短期間の施工期間に向けて詳細な打合せが十分に行われた。

施工準備の打合せは施工者が主導となり、2018年8月に学生が提案内容を施工者へ伝えることから始まった。完成までに学生は4回の打合せと家具工場の視察および施工現場への参加を行った。

提案した木箱イメージは事業者を通してりんごの木箱が入手できることになった。幅310mm、縦620mm、深さ310mmのりんごの木箱はサイズに多少の個体差はあったが、横向きに2段と縦1段が上手く組み合わせて並べることができた。汚れはサンダーをかけて綺麗にし、ささくれで怪我をしないよう確認を行った。パーティションや丸い柱を囲む木箱の並べ方は図面では積み上げた際のニュアンスが確認できなかったため、1/20の模型を作成し施工者へイメージを伝えた(図9)。施工者はりんごの木箱を利用したパーティション・柱周りの装飾・サービステーブル・壁面の棚など木箱の施工図を制作し詳細を打ち合わせた(図10)。木箱のパーティションにメニューボードを組み込むデザインでは、模型写真と施工図を元に3案を提案し(図11)、メニューをまとめて表示するのではなく点在させるplan3が採用された(図11)。

施工図は指導教員が施工者との打合せに立会い、学生の補佐を行った。現場で作業が進む中、学生は自分たちの制作したアートの取り付けや棚の飾りつけなどを行った。

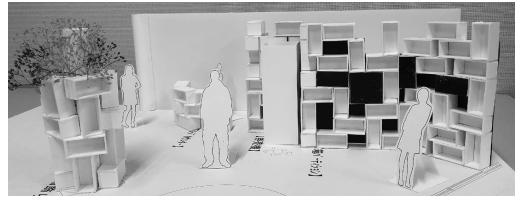


図9 りんごの木箱模型

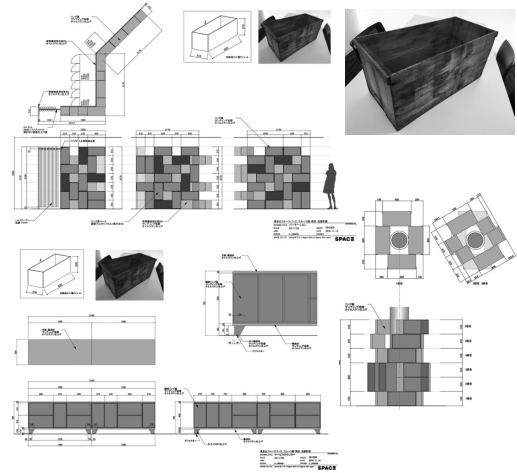


図10 りんごの木箱(加工前), りんごの木箱の施工図の一部(パーティション, 柱周りの飾り棚, サービステーブル)

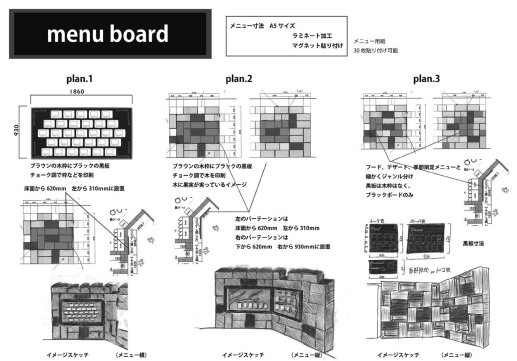


図11 りんごの木箱に組見込むメニューボードの案



図12 りんごの木箱のパーティションとメニューボード

5. 試作検討, カラースキム

りんごの木箱には経年の変化による色の個体差をなくすためロックオイルステイン（油性木部着色剤）で着色を施した。棚を飾る園内の木の実などの色合いと合わせ、木箱の色が均一になじむ濃すぎない着色を選定した（図13）。

予算の関係上、床・天井は補修以外は現状のままとしたが、壁面は基準となる白の色を決め、暗いブルーの壁面と窓側の丸い柱には日の暖かさを感じさせる黄色をポイント色とした。椅子の裂地は汚れが拭き取りやすいビニルレザーを選定し、若葉の緑、空のブルーをイメージした色をフロア全体にちりばめ、テーブルは明るい木目柄のメラミン化粧板（アイカ LJ-10018K）を使用した。空間全体が明るい色調であるが、りんごの木箱のナチュラルな木の色と、壁面には黑板アート調の園内マップとメニューボードの黒い色がポイントとして加わるカラースキムとした。

6. オリジナルアート, ロゴタイプ制作

学生の改修計画案にはカフェイメージを作るためのオリジナルアートや黑板アート調のメニューボードと壁面マップ、ロゴマークなどの提案が含まれていた。

厨房カウンター上部にはフードメニュー、壁面には園内マップを adbe photoshop CC 2019 を使って制作した（図14）。

レストハウスにはこれまで特別な名前はなく、改修にあわせて「フルーツパークテラス」、レストハウスと同時に行われた販売所の改修には「フルーツパークマルシェ」というネーミングが仮に設定されていた。ロゴマークのコンセプトとして、フルーツパークを表現できる鳥が集まる宿り木という意味を持つ「りんご」と、元々ぶどう畑から始まったフルーツパークのルーツとしての「ぶどう」が選ば



図13 左：着色とカラー確認
右：着色は上から2番目の色に決定

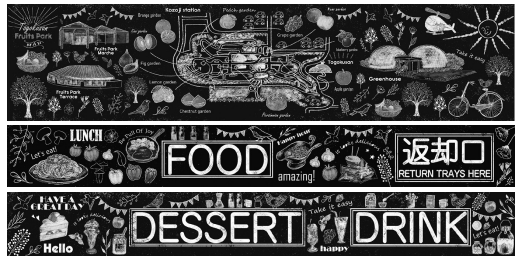


図14 学生の制作した園内マップ、カウンター下メニューボード



図15 現場に取り付けされた園内マップとエントランスの演出小物

れ、5案の中から最終決定されたロゴタイプが adbe illustrator CC 2019 を使用し製作された。ロゴマークはシャッターや物販棚、コップ、入口ガラス面などに展開された（図16）。

10月に園内の剪定枝や木の実を採取し、冬休みを利用してアート作品を制作した。採集した木の実をビンに詰め、選定枝を利用し壁面アートや木の実を利用した作品を制作し、2月に現場で取り付け作業を行った（図17）。

7. 結果と考察

改修前の問題点と設計の課題

1) 2) 3) に対してはプランの変更を行い、りんごの木箱を利用したパーティションとそこに組み込んだメニューボード(図12)を設置することで、問題点を一挙に解決させた。課題4)の暗い青色の壁面と柱の色は温かみのある黄色に塗り替え、学生の手制作した幅5.5mの黒板アート調の園内マップ(図15)を設置することで、明るく楽しいイメージを演出できた。課題6) 7) 8) はりんごの木箱を利用したサービステーブル、家具と照明器具は新規に取替えた。課題9)の子供スペースではハンギングチェアを提案したが、転倒等による怪我などが懸念されるため、ハンモックチェアに変更となった。課題10)の解決策には、パラソルと椅子を設置しオリーブの木や植物で演出した(図15)。上記の課題解決を行い、課題5)全体に魅力のない空間はお洒落で明るく楽しいレストハウスとなった。予算の都合で床、天井の改修ができなかった。

現場での改修工事は僅か1週間という短期間での工期であったが、学生・事業者・施工者との調整は実務経験のある指導者が一貫してあたることで本プロジェクトがスムーズに進んだ。学生だけでは判断できない事業者の要望をプランに反映させることや、施工図のチェックは指導教員によって補助されプロジェクトが完成した。

学生には自分たちのアイデアを図面化する



図16 ロゴマーク 検討した初期案と最終制作図および実際の利用



図17 フルーツパーク内の剪定枝を利用したアート作品

だけでなく、施工図など図面を読む力が必要であり、今後は実践にむけた技術を習得する授業内容も必要であると感じた。また、本プロジェクトは授業内のプロジェクトではなかったため、学生は短期間の改修工事期間に合わせた準備期間と授業スケジュールとの調整に

苦心した。

8. おわりに

本プロジェクトのような改修工事は、プロのデザイナーや専門業者に依頼する方が事業者にとっては時間的にも精神的負担も軽減されていたと考えられる。しかしながら学生からは若々しく楽しいアイデアが生まれ、完成後のレストハウスの5月の連休イベント時の集客は前年度の2.4倍という結果として現れた。学生にとって始めて行う実践的な経験であったが、指導教員の下で学内での学びが役立ち、自分たちのアイデアが具現化するプロセスを経て、デザインの成果を社会で実現する喜びを体験することができた。学生主体のプロジェクト環境は学生自身の目標や責任感を生みだし、対人関係やコミュニケーション力といった社会人基礎力や学習意欲の向上につながった。

実務経験のある指導者が率いた産学連携でのレストハウス改修は、大学の地域貢献として十分な成果を達成し、今後のモデルケースとなった。

謝辞

本研究にご協力いただいた名古屋市みどりの協会、株式会社スペースに謝意を表す。また、特別プロジェクトチームに参加した学生の皆様に感謝の意を表す。

作品の概要

作品名：東谷山フルーツパーク内レストハウス改修工事

所在地：名古屋市守山区上志段味東谷2110番地

発注者：名古屋市みどりの協会

施工：株式会社スペース

学生による計画・制作期間：

2018年1月～（約14ヶ月）

施工者による調査・設計期間：

2018年8月～（約4.5ヶ月）

工事期間：2019年2月（約1週間）

工事面積：レストラン兼休憩ホールのうち約220㎡

工種：天井・壁（一部補修再塗装）、柱（再塗装）床（既存）照明器具更新、客席椅子更新100席、テーブル天板更新（脚部既存利用）、キッズコーナー新設（床カーペット、ハンモックチェア、ティピーテント、スツール）、りんご木箱（パーティション、サービステーブル）、壁面演出造作

注および参考文献

- 1) 名古屋市の施設に係る指定管理者制度
<http://www.city.nagoya.jp/shiseicategory/50-8-0-0-0-0-0-0-0-0.html>（2019.06.02閲覧）
- 2) 名古屋市のホームページ 名古屋市東谷山フルーツパーク指定管理者などの選定結果について
<http://www.city.nagoya.jp/ryokuseidoboku/page/0000093680.html>（2019.06.02閲覧）
- 3) 加藤悠介・弓立順子：テーマ型公園施設における場所体験イベントの実践と評価、金城学院大学消費生活科学研究所、第23巻、第1号、pp49-55、2018